

高松市 男女共同参画に関する市民生活(中高生)意識調査 調査結果報告書

1. 調査概要

項 目	内 容																											
調 査 目 的	・ 男女共同参画に関する市民の意識、家庭生活及び職場の実情等を把握し、次期プラン策定の基礎データとすること。 ・ 今後の男女共同参画施策推進の参考資料とすること。																											
調 査 期 間	令和7年10月1日～令和7年10月31日																											
調 査 方 法	学校を通じて web アンケート依頼を配布し、web で回収																											
調 査 対 象	【対象校と対象学年】 中高生合計 1836 人（高校生 計 1353 人、中学生 計 483 人） 高松第一高等学校： 780 人、大手前高松高等学校： 573 人 香川大学教育学部附属高松中学校： 300 人、大手前高松中学校： 183 名																											
回 収 数	計 815 人：高校生 598 人、中学生 193 人、回答しない 24 人（回収率：44.4%） <table><tr><td>高校1年生</td><td>191</td><td>中学1年生</td><td>54</td></tr><tr><td>高校2年生</td><td>212</td><td>中学2年生</td><td>58</td></tr><tr><td>高校3年生</td><td>195</td><td>中学3年生</td><td>81</td></tr><tr><td>小計</td><td>598</td><td>小計</td><td>193</td></tr><tr><td>回答しない（学校種別、学年）</td><td colspan="3">24</td></tr><tr><td>合計</td><td colspan="3">815</td></tr></table>				高校1年生	191	中学1年生	54	高校2年生	212	中学2年生	58	高校3年生	195	中学3年生	81	小計	598	小計	193	回答しない（学校種別、学年）	24			合計	815		
高校1年生	191	中学1年生	54																									
高校2年生	212	中学2年生	58																									
高校3年生	195	中学3年生	81																									
小計	598	小計	193																									
回答しない（学校種別、学年）	24																											
合計	815																											

2. 調査結果

- ※ 調査結果において、割合（構成比）を示しているものについては、小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計値が100.0とならない場合がある。
- ※ その他等の自由記述については、回答者の意図を損なわない範囲で、誤字脱字、表記揺れ、明らかな変換ミス等を修正した。また、個人情報、誹謗中傷、公表に適さない表現等を含む記述については、一部削除又は掲載を省略した。内容が同一又は類似する回答については、必要に応じて整理・分類した。

属性

性別

回答しない; 34人; 4%

男性; 337人; 41%

女性; 444人; 55%

N=(815)

学年

回答しない; 24人; 3%

高校1年生; 191人; 23%

高校2年生; 212人; 26%

高校3年生; 195人; 24%

中学3年生; 81人; 10%

中学2年生; 58人; 7%

中学1年生; 54人; 7%

N=(815)

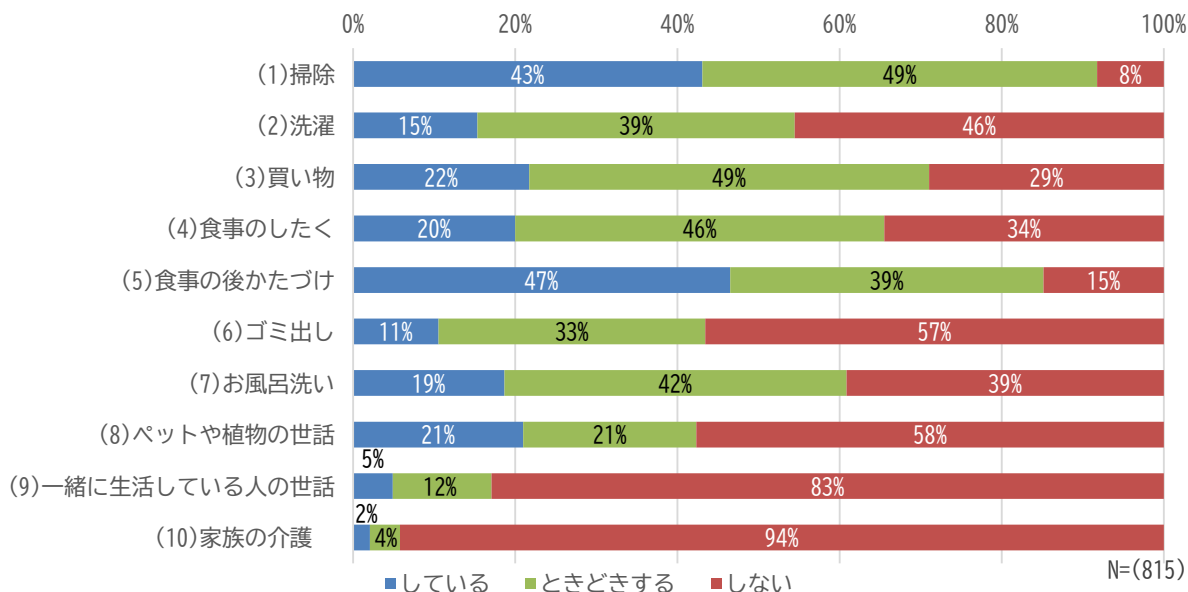
学年別男女比

	中学 1年生	中学 2年生	中学 3年生	中学生 全体	高校 1年生	高校 2年生	高校 3年生	高校生 全体	回答 しない
男性	37%	38%	54%	43%	40%	43%	42%	42%	8%
女性	59%	59%	44%	54%	59%	55%	55%	56%	25%
回答しない	4%	3%	1%	3%	2%	2%	3%	2%	67%

1 男女平等と性的役割分担について

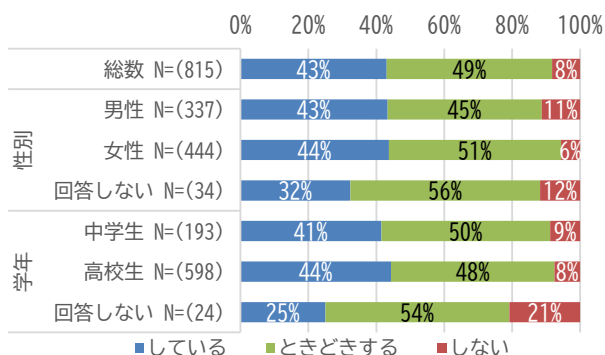
問1 あなたは、生活の中で次のようなことをしていますか。(それぞれ、当てはまる番号1つに○)

- ・ 性別で比べると「(4)食事のしたく」は「しない」と回答した人の割合は男性が女性より13%多かった。
- ・ 「(6)ゴミ出し」は「しない」と回答した人の割合は女性が男性より15%多かった。
- ・ その他の項目については、性別では大きな差は見られなかった。

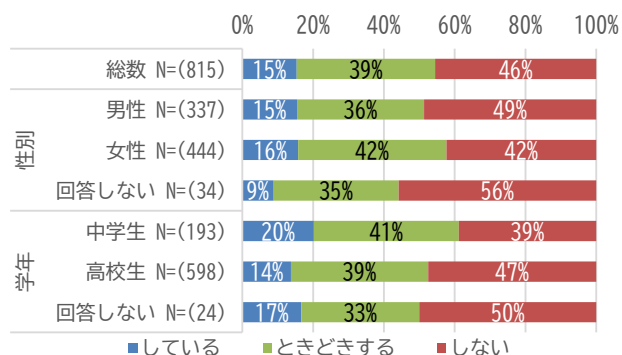


■クロス集計

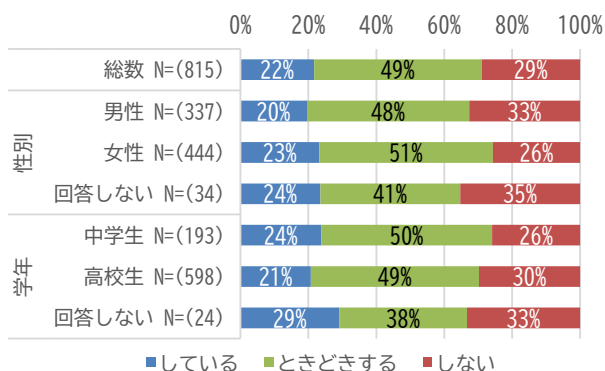
(1)掃除



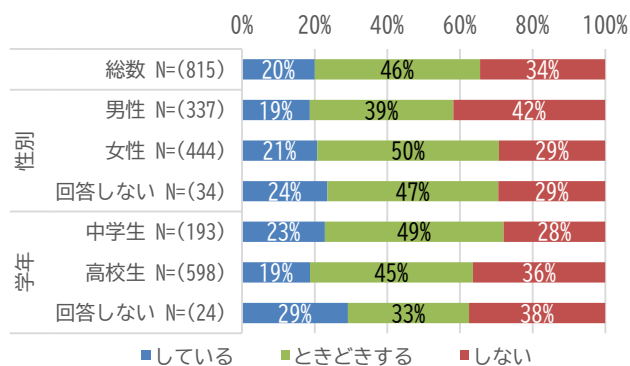
(2)洗濯



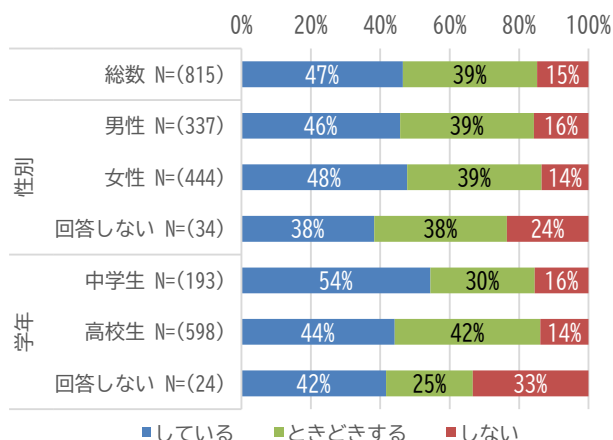
(3)買い物



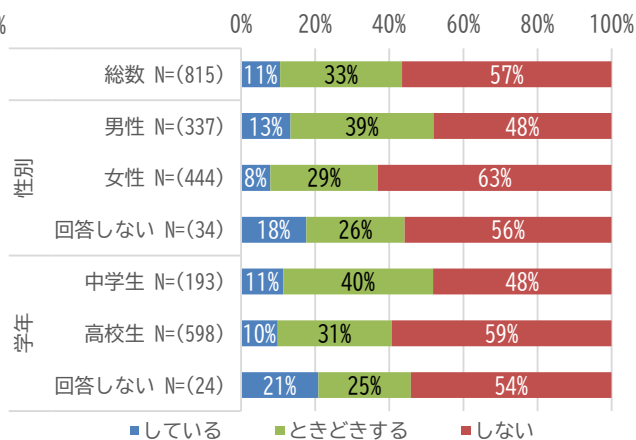
(4)食事のしたく



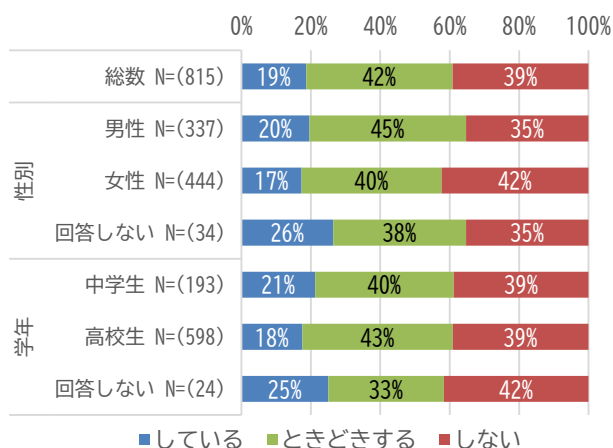
(5)食事の後かたづけ



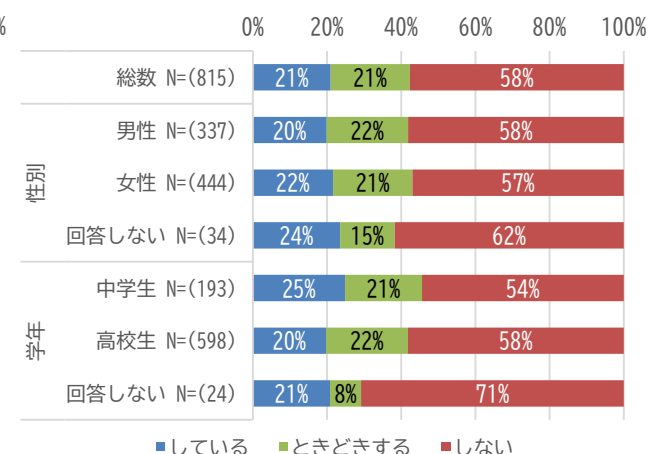
(6)ゴミ出し



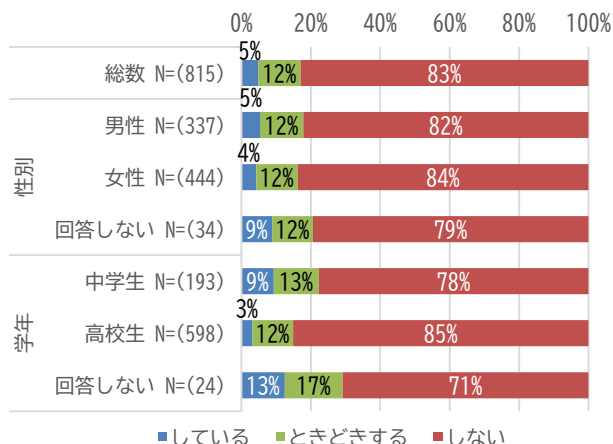
(7)お風呂洗い



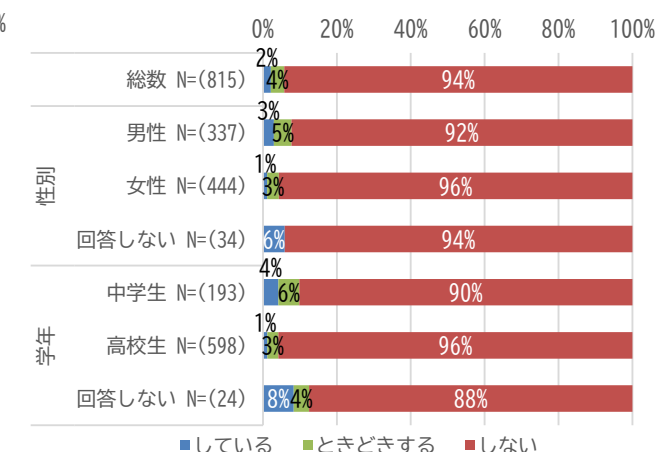
(8)ペットや植物の世話



(9)一緒に生活している人の世話



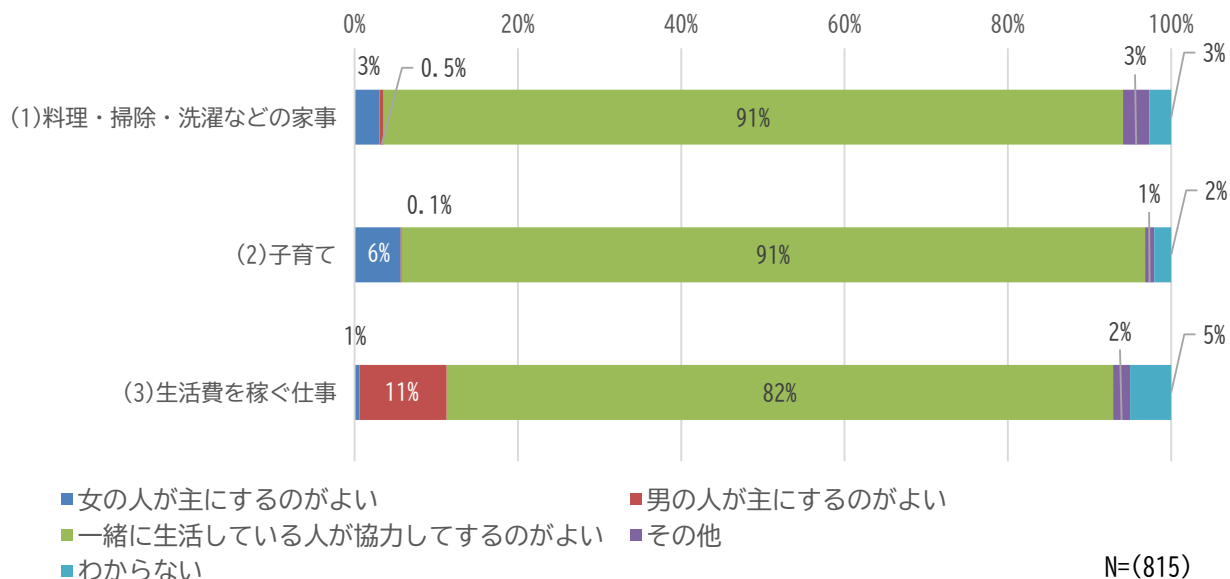
(10)家族の介護



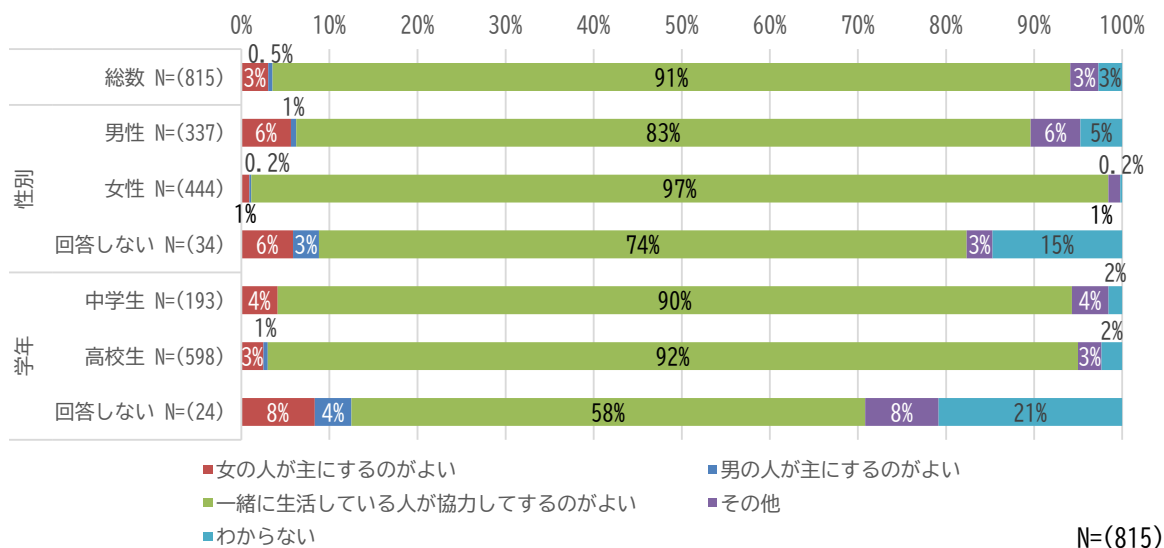
問2 あなたは、次のようなことは、だれがするのが一番よいと思いますか。

(それぞれ、当てはまる番号1つに○)

- ・単純集計では、(1)～(3)の全ての項目において「一緒に生活している人が協力してするのがよい」と回答した人の割合が80%以上を占めていた。
- ・「女の人が主にするのがよい」と回答した人が「(1)料理・掃除・洗濯などの家事」では3%、「(2)子育て」では6%いた。「男の人が主にするのがよい」と回答した人が、「(3)生活費を稼ぐ仕事」では11%いた。
- ・クロス集計では、(1)～(3)の全ての設問において、性別で比べると女性、学年別で比べると高校生の方が、「一緒に生活している人が協力してするのがよい」と回答した人の割合が高かった。
- ・性別で比べると女性、学年別で比較すると高校生の方が、「女の人が主にするのがよい」、「男の人が主にするのがよい」と回答した人の割合がいずれもやや低くなっていることから、女性や学年が上がるほど、家事等の役割分担に関して男女の適性を意識しない傾向が強まると考えられる。



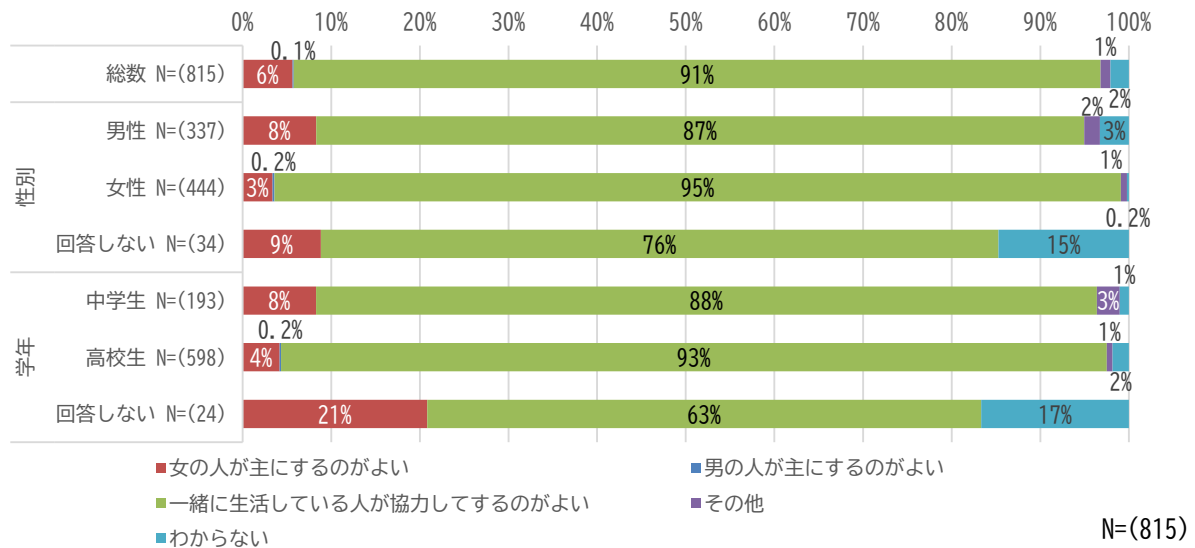
(1)料理・掃除・洗濯などの家事



■その他の回答

得意・やりたい・できる人がやる	7人
時間に余裕のある人がやる	5人
仕事をしていない人がやる（共働きの場合は協力・分担）	4人
各家庭の事情に合わせて決める	4人
自分の身の回りのことは自分でやる	2人
仕事をしていない人がやる	1人
収入に応じて役割分担する	1人
親がやる	1人

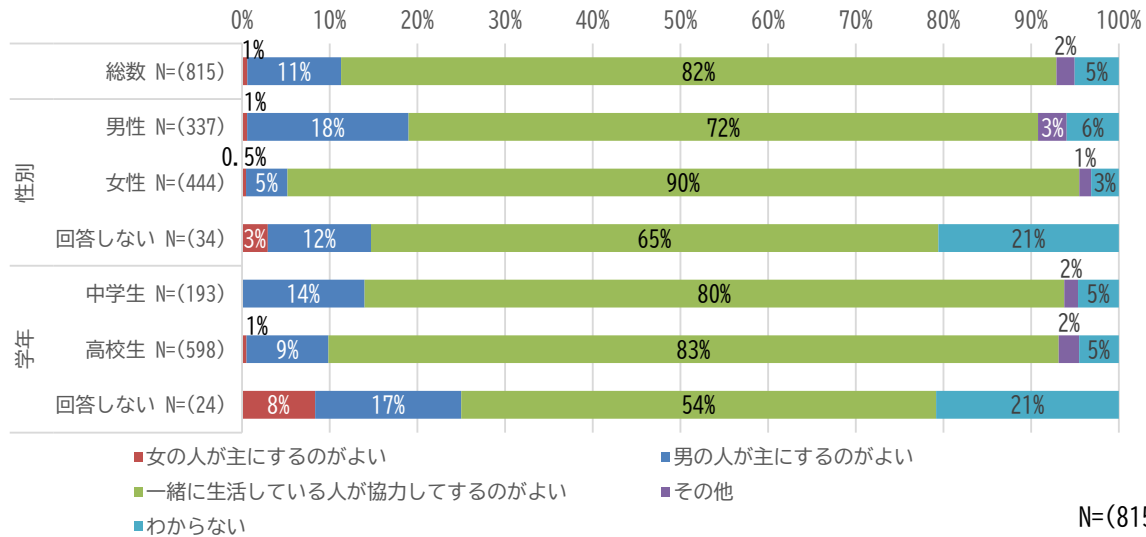
(2)子育て



■その他の回答

各家庭の事情に合わせて決める	2人
仕事をしていない人がやる（共働きの場合は協力・分担）	2人
均等に分担するのではなく、状況に応じて柔軟に対応する	1人
外部支援を活用する（ベビーシッター等）	1人
子が安心する方がやる	1人
得意・やりたい・できる人がやる	1人

(3)生活費を稼ぐ仕事

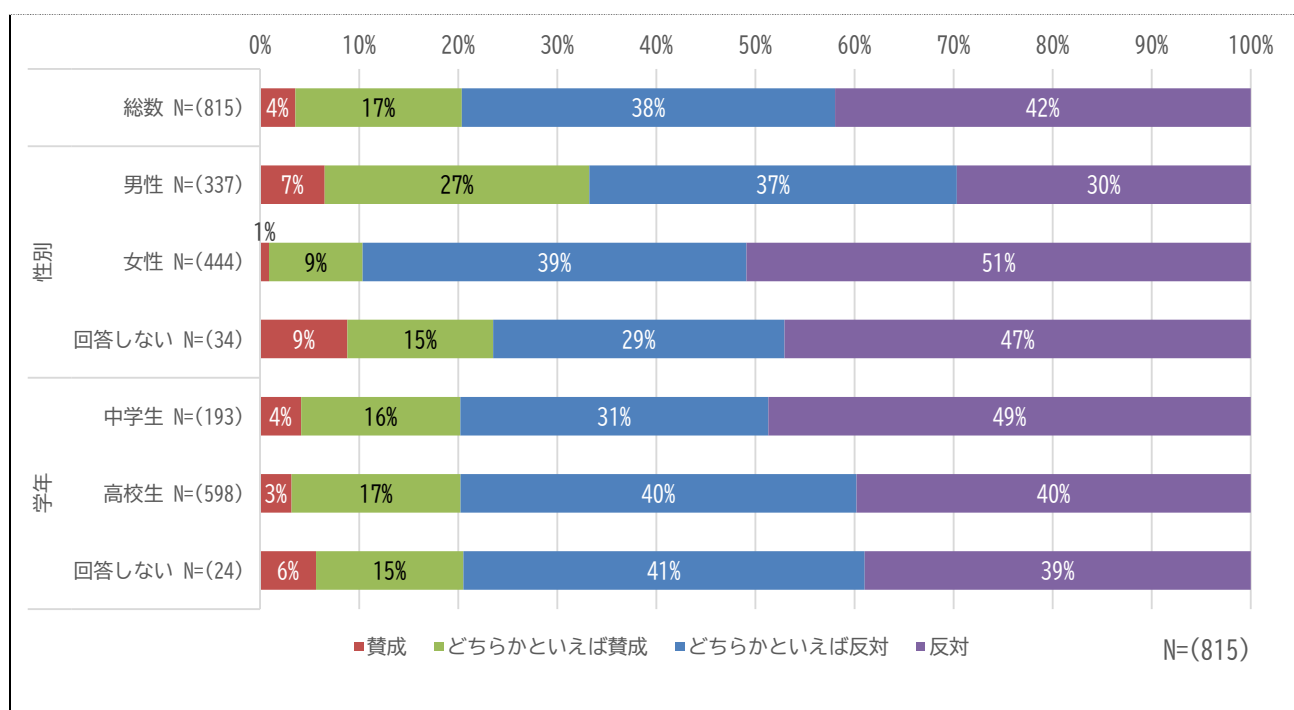


■その他の回答

各家庭の事情に合わせて決める	5 人
仕事をしていない人	3 人
仕事をしたい人がやる	2 人
得意・向いている人がやる	2 人
親がやる	1 人
どちらか片方でも、共働きでも良い	1 人
均等に分担するのではなく、状況に応じて柔軟に対応する	1 人
家計・収入は各自負担す	1 人
どちらもやる	1 人

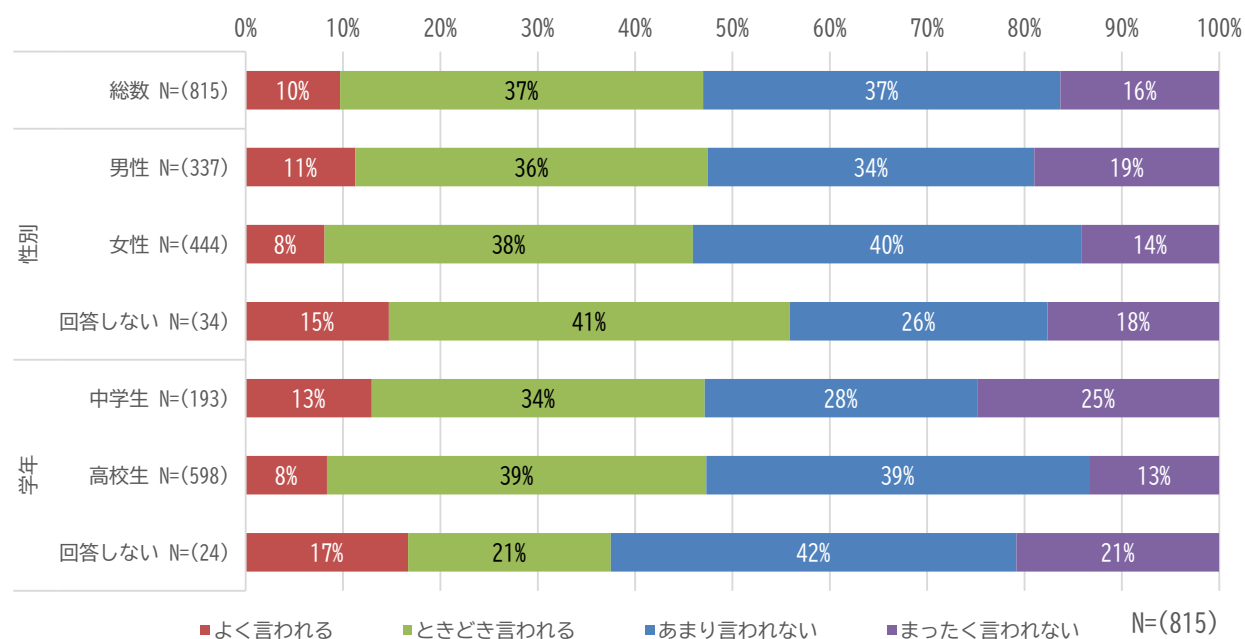
問3 「男は仕事、女は家庭」といった考えがありますが、このことについて、あなたは賛成ですか、それとも反対ですか。(当てはまる番号1つに○)

- ・「男は仕事、女は家庭」の考え方における賛否について、「反対」、「どちらかといえば反対」を合わせた回答者の割合が 8 割を占めており、「男は仕事、女は家庭」という考え方について否定的な人の方が多い結果となった。
- ・性別で比べると、女性は「反対」、「どちらかといえば反対」を合わせた回答者の割合は 90%となっており、否定的な傾向が強い。一方、男性は「反対」、「どちらかといえば反対」を合わせた回答者の割合は 67%であり、性別による考え方の差が見られた。



問 4 あなたは、「男の子だから～しなくてはならない、～してはいけない」や「女の子だから～しなくてはならない、～してはいけない」のように言われたことがありますか。
(当てはまる番号1つに○)

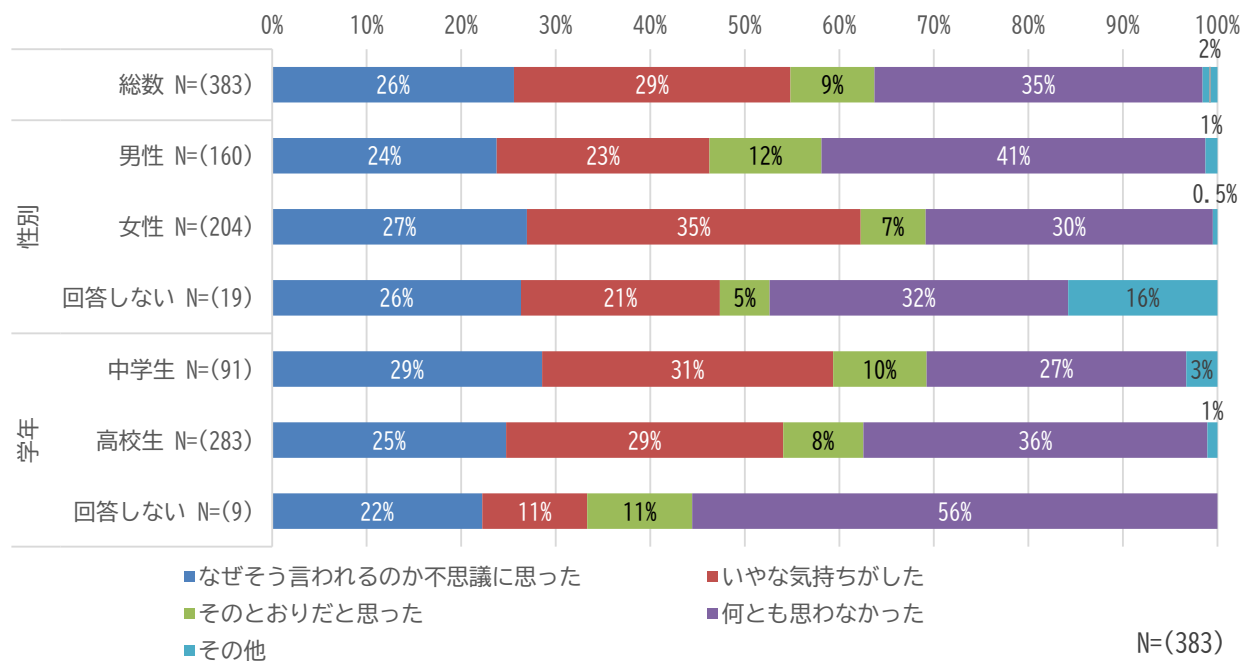
- ・ 単純集計では、「男の子だから」や「女の子だから」と言われた経験について、「よく言われる」と回答した人の割合が10%、「ときどき言われる」が37%であり、約半数の人がこのように言われる経験があった。
- ・ 性別や学年別による大きな差は見られなかった。



※問4-1は、問4で「1. よく言われる」又は「2. ときどき言われる」と答えた方にお聞きします。
それ以外の方は問5へ進んでください。

問4-1 あなたは言われた時、どんな気持ちでしたか。（当てはまる番号1つに○）

- ・単純集計では、「何とも思わなかった」と回答した人の割合が最も高く 35%となり、次いで「いやな気持ちが出た」、「なぜそう言われるのか不思議に思った」が続いた。
- ・性別で比べると、女性は、「いやな気持ちが出た」と回答した人の割合が最も高く 35%となり、男性と比べて高い結果となった。また、「何とも思わなかった」、「そのとおりだと思った」と回答した人の割合は、女性の方が低くなっていることから、女性の方が「男の子だから」や「女の子だから」といった性別を前提とした表現を不快に感じる傾向があると考えられる。



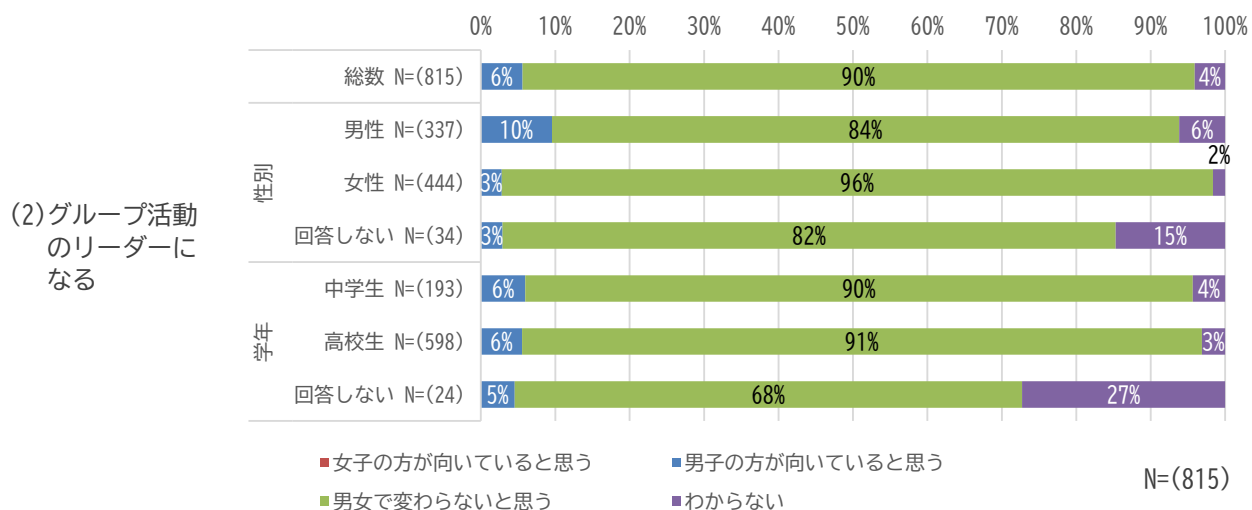
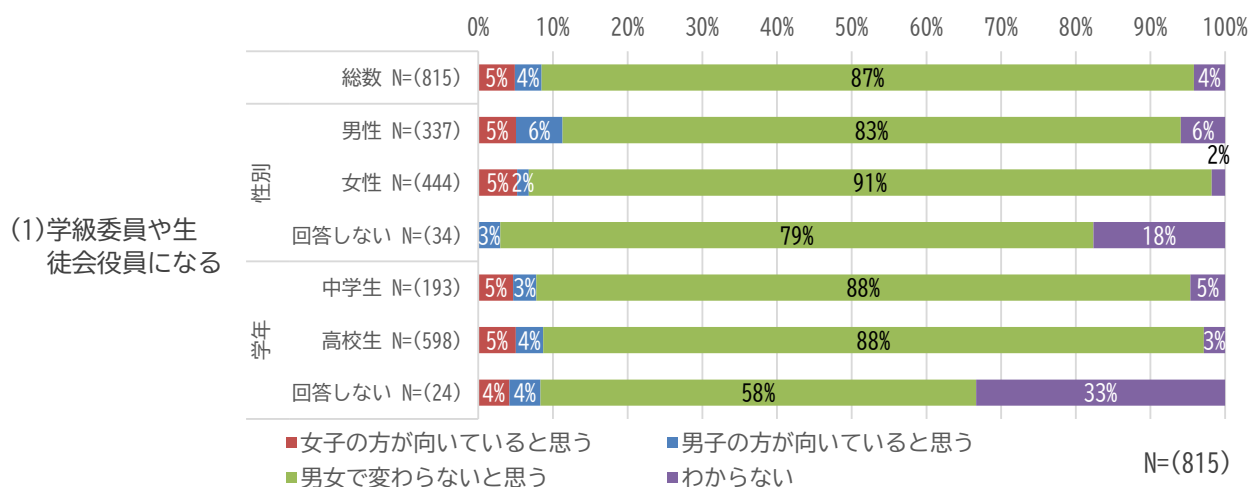
■その他の回答

すごく悲しかった	1人
他人事だと思って聞いていない	1人
精神論は時と場合によってはいいと思う	1人
そうでなければ、しなくていいのか？	1人
医者に言われた	1人

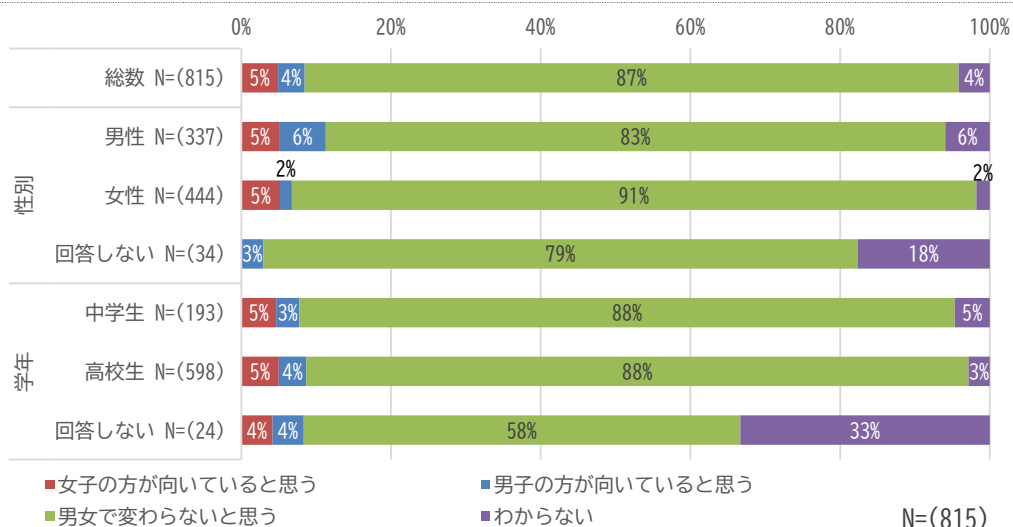
2 学校生活について

問5 学校での生活について聞きます。(それぞれ、当てはまる番号1つに○)

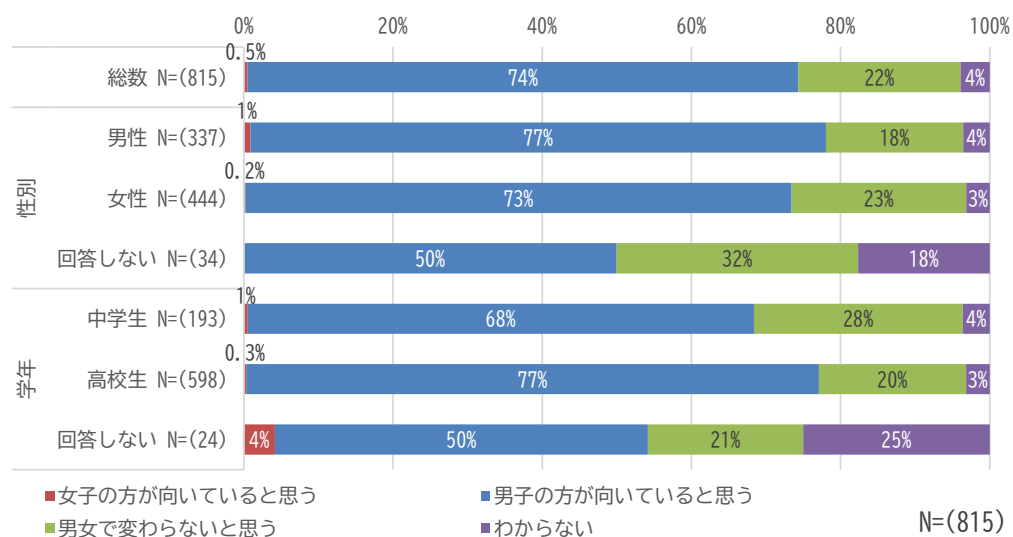
- ・ 単純集計では、「(1)学級委員や生徒会役員になる」、「(2)グループ活動のリーダーになる」、「(3)授業で手をあげたり、話合いで積極的に意見を言う」の設問について、「男女で変わらないと思う」と回答した人の割合が85%を超えた。
- ・ 「(4)重い物を運んだり、力がある仕事をする」の設問については、「男子の方が向いていると思う」と回答した人の割合が74%となっており、「(5)掃除や整理整とんをする」の設問については「女子の方が向いていると思う」が18%となっていた。
- ・ 性別で比べると、(1)～(5)全ての設問において、女性の方が「男女で変わらないと思う」と回答した人の割合が男性より高かった。



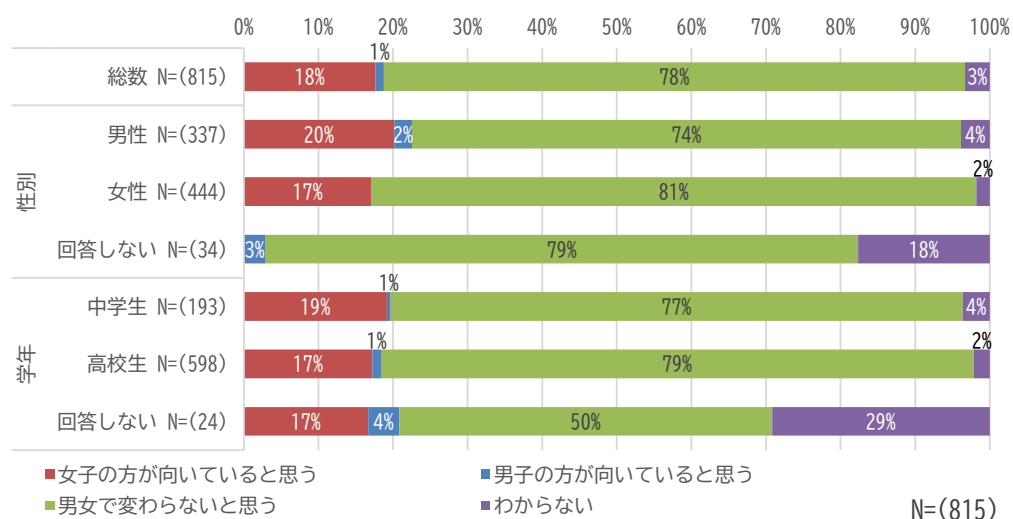
(3)授業で手をあげたり、
話合いで積極的に意見を言う



(4)重い物を運んだり、力
ががいる仕事をする



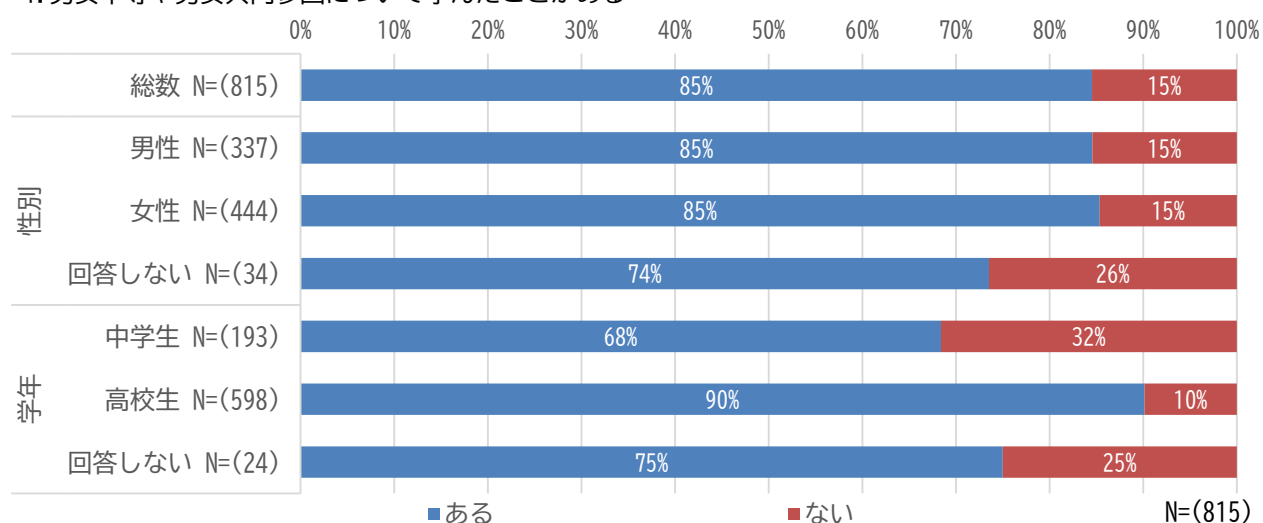
(5)掃除や整理整頓をする



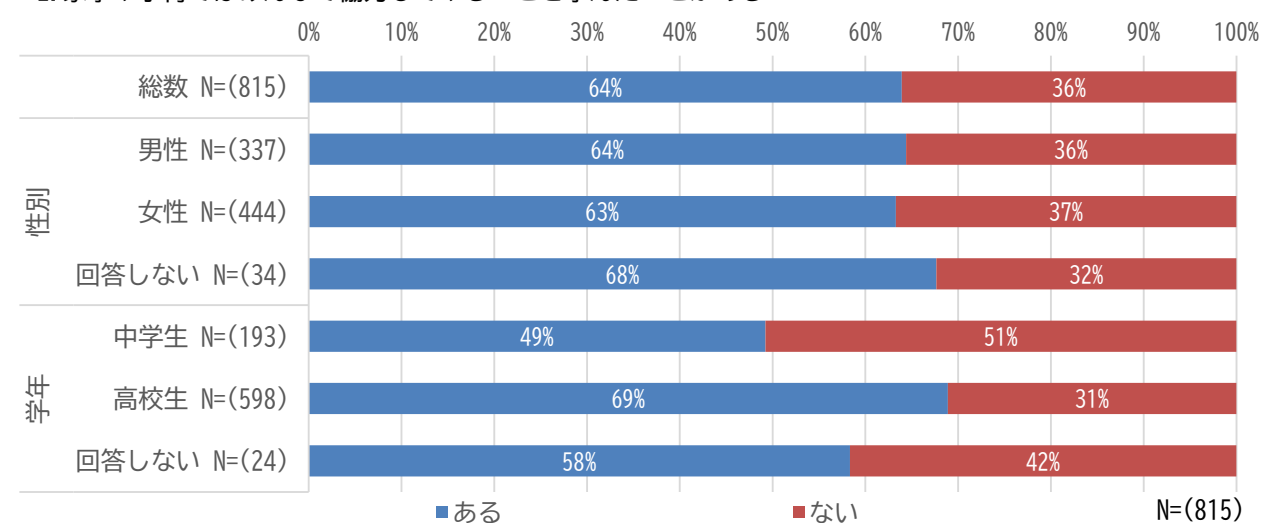
問6 あなたは学校などで、次のようなことを学んだことがありますか。(当てはまる番号すべてに○)

- ・ 性別で比べると、いずれの項目においても、大きな差は見られなかった。
- ・ 学年別で比べると、「1. 男女平等や男女共同参画について学んだことがある」と回答した人の割合は、中学生が約7割、高校生は約9割を占めた。
- ・ 「2. 家事や子育てはみんなで協力してやることを学んだことがある」、「3. 性別にかかわらず、自分になりたい仕事選びをすることが大切だということについて学んだことがある」と回答した人の割合は、中学生が約5割、高校生は約7割を占めた。
- ・ 「4. 自分の体や心についての悩みをだれにも打ち明けられずにいる人がいることについて学んだことがある」と回答した人の割合は、中学生、高校生共に約7割を占めた。
- ・ 「5. デートDVについて学んだことがある」と回答した人の割合は、中学生は4%、高校生は35%だった。

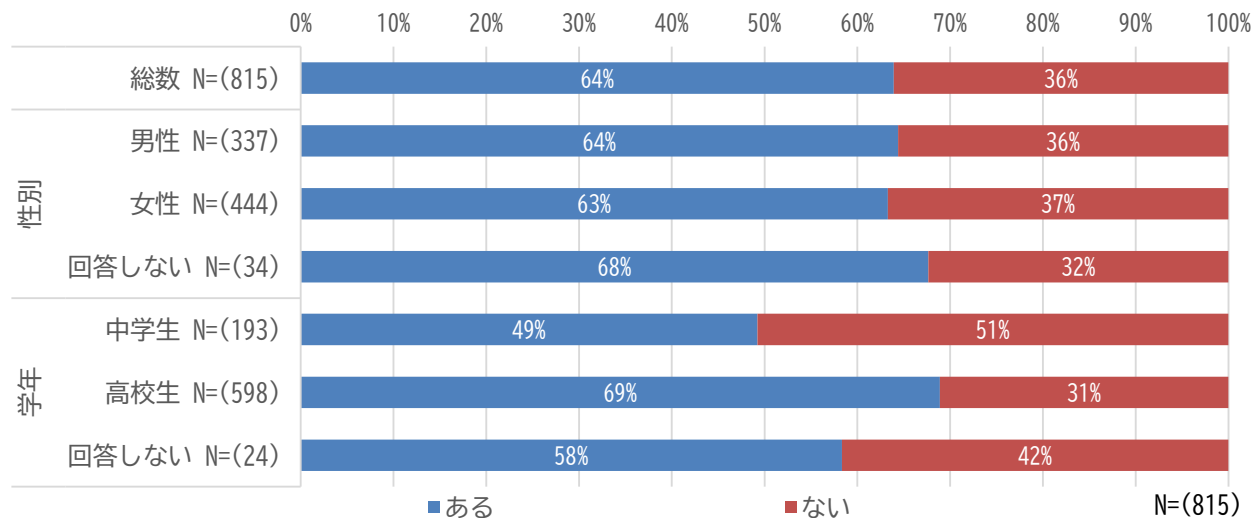
1. 男女平等や男女共同参画について学んだことがある



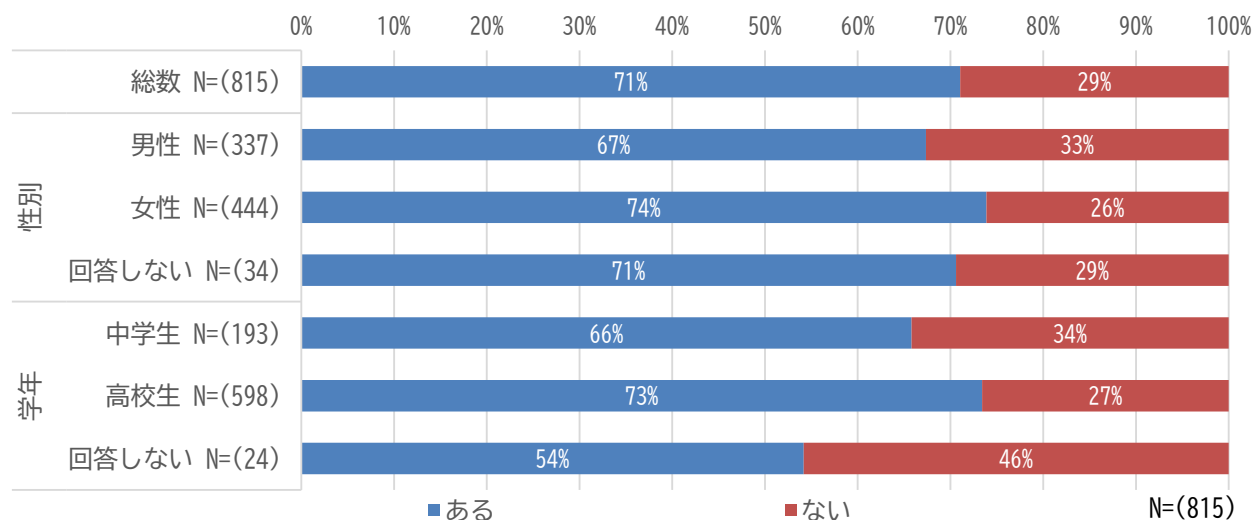
2. 家事や子育てはみんなで協力してやることを学んだことがある



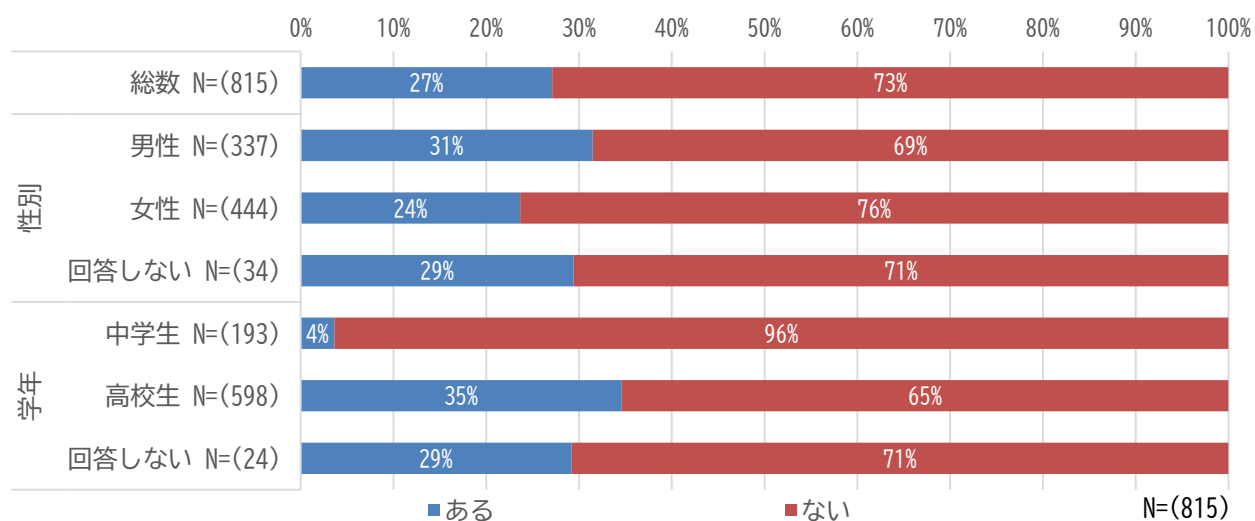
3. 性別にかかわらず、自分がなりたい仕事選びをすることが大切だということについて学んだことがある



4. 自分の体や心についての悩みをだれにも打ち明けられずにいる人がいることについて学んだことがある

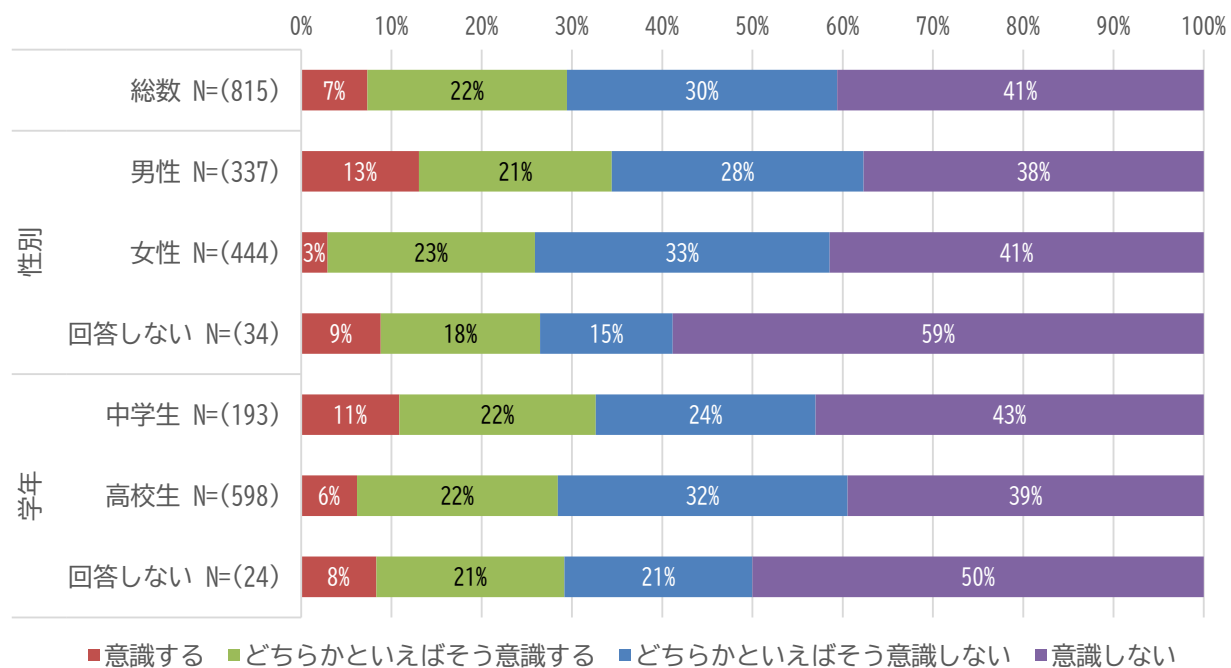


5. デートDVについて学んだことがある



問7 あなたは、進路や職業を選択する際に、性別を意識しますか。(当てはまる番号1つに○)

- ・単純集計でみると、「意識しない」、「どちらかといえばそう意識しない」を合わせた回答者の割合が71%となっており、進路や職業選択において性別を意識しない回答者が過半数を超えた。
- ・性別で比べると、「意識する」と回答した人の割合が男性は13%、女性は3%と差が見られた。
- ・また、「意識しない」、「どちらかといえば意識しない」を合わせた回答者の割合は、男性が66%、女性が74%であり、女性の方が進路や職業選択における性別の意識がやや低い傾向が見られた。

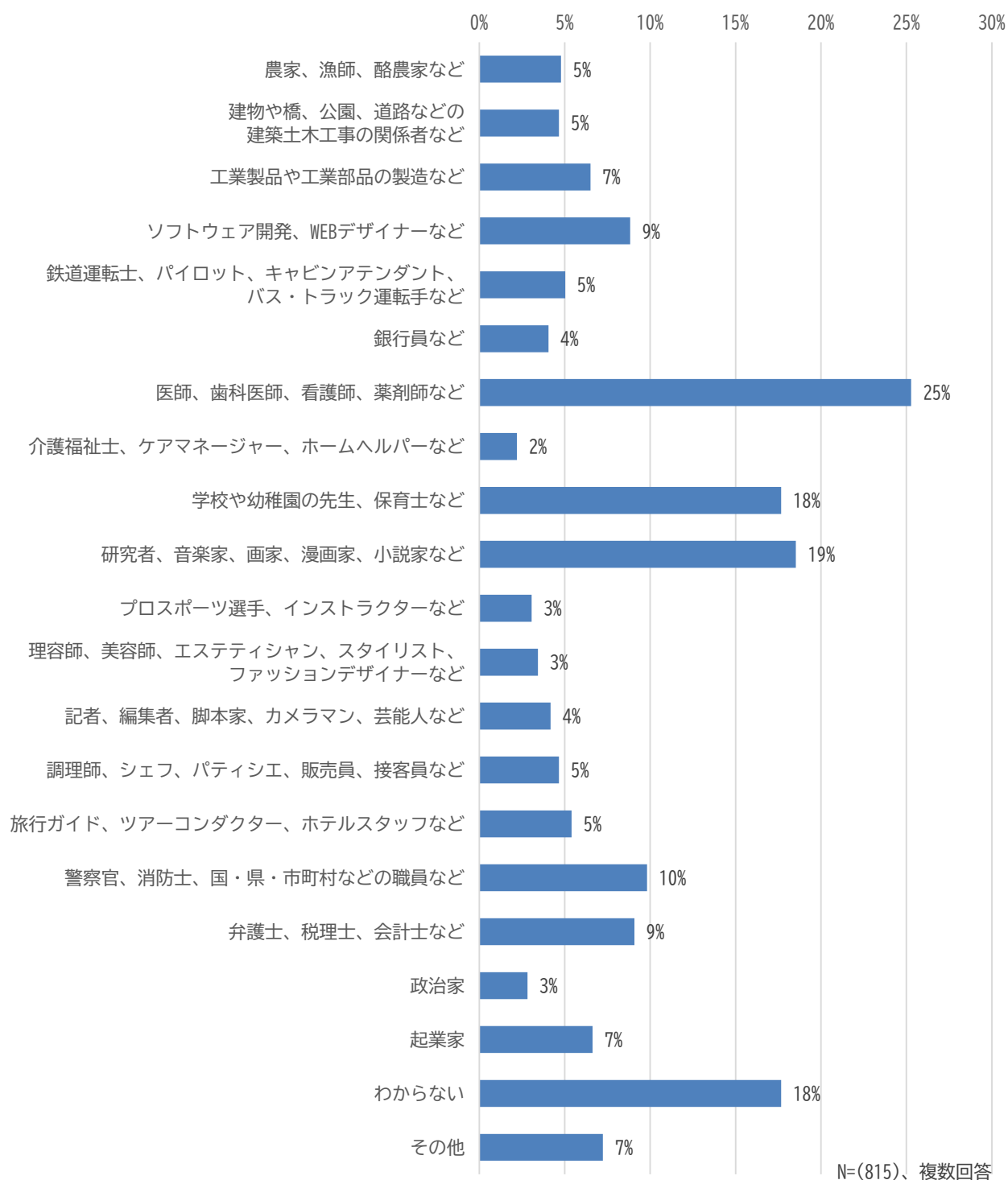


N=(815)

3 将来について

問8 あなたは、将来どのような仕事につきたいと思いますか。(〇は3つまで)

- ・ 単純集計では、「医師、歯科医師、看護師、薬剤師など」と回答した人が最も高く 25%となり、次いで「研究者、音楽家、画家、漫画家、小説家など」、「学校や幼稚園の先生、保育士など」、「わからない」と続いた。
- ・ 性別、学年別による大きな差は見られなかった。



■クロス集計表

	総数 N=(815)	性別			学年						
		男性 N=(337)	女性 N=(444)	回答 しない N=(34)	中学 1年生 N=(54)	中学 2年生 N=(58)	中学 3年生 N=(81)	高校 1年生 N=(191)	高校 2年生 N=(212)	高校 3年生 N=(195)	回答 しない N=(24)
農家、漁師、酪農家など	5%	5%	3%	18%	6%	0%	10%	5%	3%	5%	8%
建物や橋、公園、道路などの建築土木工事の関係者など	5%	7%	4%	0%	2%	2%	5%	5%	7%	5%	0%
工業製品や工業部品の製造など	7%	12%	2%	12%	2%	0%	6%	5%	8%	8%	13%
ソフトウェア開発、WEBデザイナーなど	9%	13%	5%	18%	7%	2%	11%	7%	7%	12%	21%
鉄道運転士、パイロット、キャビンアテンダント、バス・トラック運転手など	5%	5%	5%	3%	15%	3%	10%	3%	5%	3%	4%
銀行員など	4%	5%	3%	0%	2%	7%	4%	4%	4%	5%	0%
医師、歯科医師、看護師、薬剤師など	25%	18%	32%	15%	41%	36%	30%	31%	22%	16%	8%
介護福祉士、ケアマネジャー、ホームヘルパーなど	2%	1%	3%	0%	2%	0%	2%	3%	3%	2%	0%
学校や幼稚園の先生、保育士など	18%	15%	21%	9%	17%	17%	10%	23%	19%	17%	0%
研究者、音楽家、画家、漫画家、小説家など	19%	18%	18%	41%	17%	17%	15%	25%	16%	17%	25%
プロスポーツ選手、インストラクターなど	3%	6%	1%	0%	9%	2%	5%	3%	1%	3%	0%
理容師、美容師、エステティシャン、スタイリスト、ファッションデザイナーなど	3%	0%	6%	0%	9%	3%	5%	4%	3%	1%	0%
記者、編集者、脚本家、カメラマン、芸能人など	4%	1%	6%	3%	7%	12%	4%	3%	1%	6%	0%
調理師、シェフ、パティシエ、販売員、接客員など	5%	1%	7%	6%	6%	5%	7%	5%	4%	4%	4%
旅行ガイド、ツアーコンダクター、ホテルスタッフなど	5%	2%	8%	3%	0%	9%	4%	5%	8%	5%	0%
警察官、消防士、国・県・市町村の職員など	10%	12%	9%	6%	7%	9%	9%	7%	13%	12%	4%
弁護士、税理士、会計士など	9%	10%	9%	3%	7%	7%	11%	9%	9%	10%	4%
政治家	3%	5%	1%	6%	2%	3%	4%	2%	2%	4%	4%
起業家	7%	11%	4%	0%	9%	7%	11%	4%	5%	10%	0%
わからない	18%	21%	15%	18%	9%	24%	15%	18%	18%	15%	46%
その他	7%	7%	7%	15%	13%	19%	10%	5%	4%	6%	13%

*それぞれの性別や学年で選択率 ■：上位1位、■：2位、■：3位

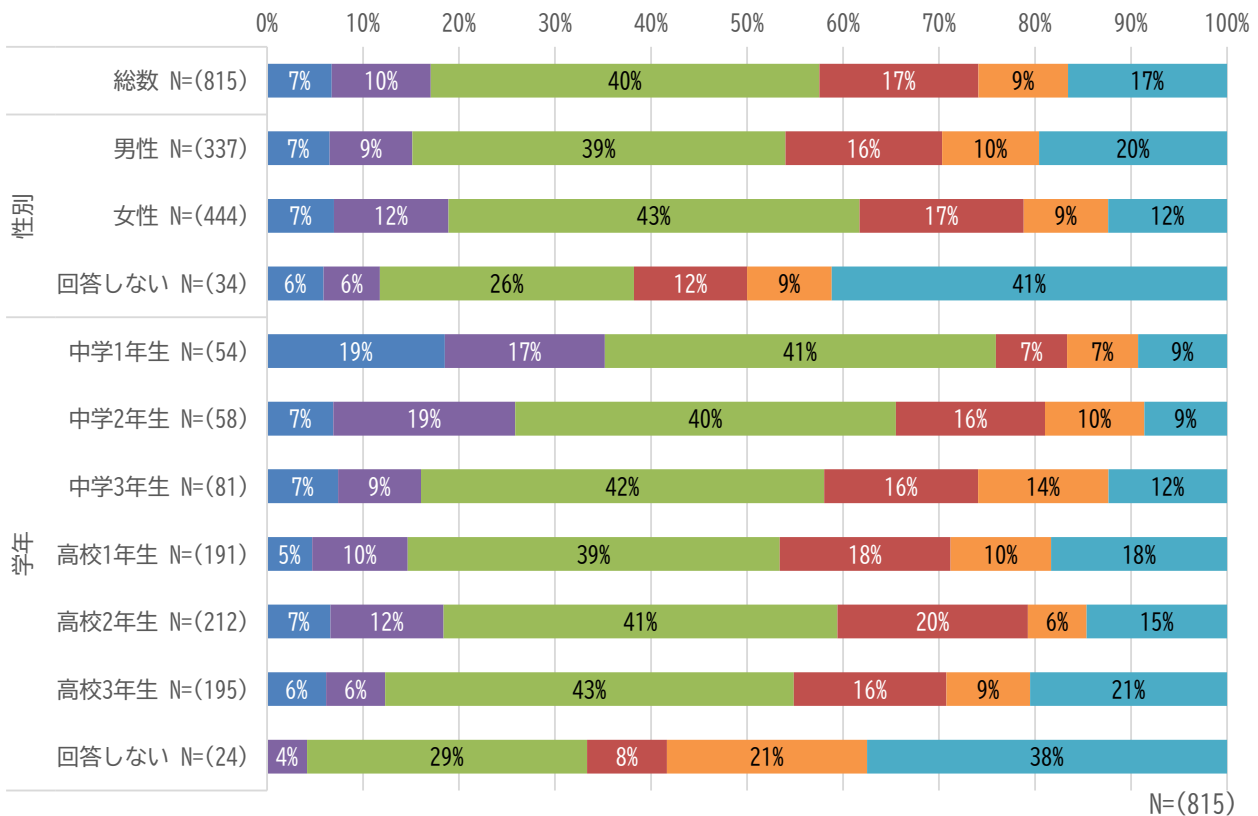
■その他の回答

研究者	3人	コンサルティング	3人	獣医	2人
考古学者	2人	アナウンサー	2人	通訳	2人
自衛隊	2人	投資家	2人	原型師	1人
プログラマー	1人	獣医看護師	1人	語学学者	1人
保護施設職員	1人	プロ棋士	1人	スポーツトレーナー	1人
マネージャー・整体師	1人	プロ野球の審判	1人	気象予報士	1人
化粧品開発者	1人	モデル	1人	バンドマン	1人
声優	1人	芸能マネージャー	1人	ライブ音響	1人
フードコーディネーター	1人	栄養士	1人	商品開発	1人
テーマパークのスタッフ	1人	グラウンドスタッフ	1人	キャスト	1人

外交官	1人	公務員	1人	公認会計士	1人
僧侶	1人	情報サービス業	1人	航空系の仕事	1人
JAXA で人工衛星のプロジェクトに携わる	1人	外資系のパイロット・CA、国際関連の仕事	1人	トンボ研究	1人
ピアノ 芸術関係	1人	ダンスと歌をする仕事	1人	歌に関わる仕事	1人
塾の先生、大手企業に就職、芸能人に関われる仕事	1人	インテリア関係の仕事	1人	国際支援に関する職業	1人
世界中でやる仕事	1人	バタフライの社員	1人	M1 出場	1人
知らない	1人				

問9 あなたは、これからも高松市に住みたいと思いますか。(当てはまる番号1つに○)

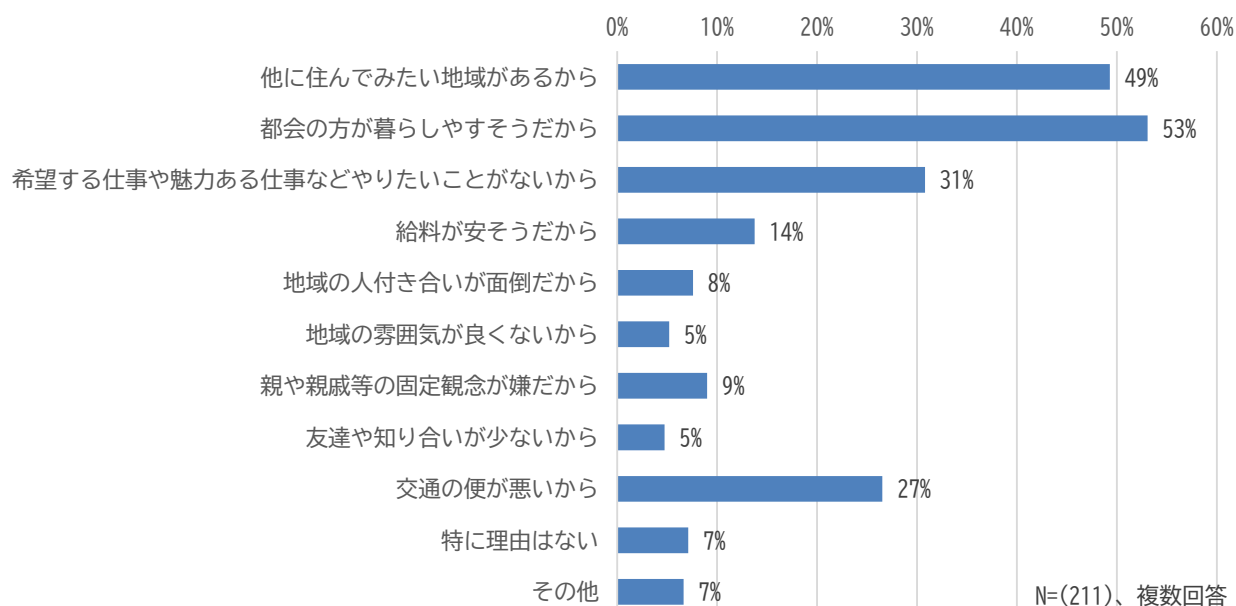
- ・ 単純集計では、「一度は市外に出て、いずれ戻ってきたい」と回答した人の割合が40%と最も高かった。
- ・ 「ずっと住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた回答者の割合が17%で、住み続けたいと思う人は全体の2割程度という結果となった。
- ・ 性別による大きな差は見られなかった。



※問 9-1 は、問 9 で「4. どちらかといえば住みたくない」又は「5. 住みたくない」と答えた方にお聞きします。それ以外の方は問 10 へ進んでください。

問 9-1 住みたくないと思う理由をお聞かせください。（当てはまる番号すべてに○）

- ・単純集計では、「他に住んでみたい地域があるから」、「都会の方が暮らしやすそうだから」と回答した人の割合がいずれも約 5 割であった。また、3 割程度の人が「希望する仕事や魅力ある仕事などやりたいことがないから」、「交通の便が悪いから」と回答している。
- ・「住みたくない」と思う理由について、性別や学年別による大きな差は見られなかった。



■クロス集計表

	総数 N= (211)	性別			学年						
		男性 N= (89)	女性 N= (115)	回答 しない N=(7)	中学 1 年生 N=(8)	中学 2 年生 N=(15)	中学 3 年生 N=(24)	高校 1 年生 N=(54)	高校 2 年生 N=(55)	高校 3 年生 N=(48)	回答 しない N=(7)
他に住んでみたい地域があるから	49%	48%	53%	0%	63%	60%	33%	43%	55%	60%	0%
都会の方が暮らしやすそうだから	53%	57%	51%	29%	50%	67%	50%	50%	60%	50%	29%
希望する仕事や魅力ある仕事などやりたいことがないから	31%	27%	33%	43%	50%	20%	38%	30%	27%	33%	29%
給料が安そうだから	14%	17%	12%	0%	25%	0%	17%	26%	9%	8%	0%
地域の人付き合いが面倒だから	8%	8%	7%	14%	13%	0%	4%	11%	4%	13%	0%
地域の雰囲気が良くないから	5%	6%	5%	0%	0%	7%	13%	4%	2%	6%	14%
親や親戚等の固定観念が嫌だから	9%	8%	9%	29%	25%	7%	13%	9%	4%	13%	0%
友達や知り合いが少ないから	5%	7%	3%	0%	0%	0%	0%	6%	0%	15%	0%
交通の便が悪いから	27%	22%	30%	14%	0%	27%	25%	31%	29%	27%	0%
特に理由はない	7%	7%	6%	29%	0%	0%	13%	9%	5%	4%	29%
その他	7%	9%	4%	14%	13%	13%	4%	7%	4%	6%	14%

*それぞれの性別や学年で選択率 ■：上位 1 位、■：2 位、■：3 位

■その他の項目

現在も高松に住んでいないため	6人
他都市の方が人や魅力が多いと考えるため	2人
大学進学のため	2人
治安・交通マナーなど生活環境へ不満があるため	3人
自然環境が肌に合っていないと感じるため	1人
市の行政へ不満があるため	1人

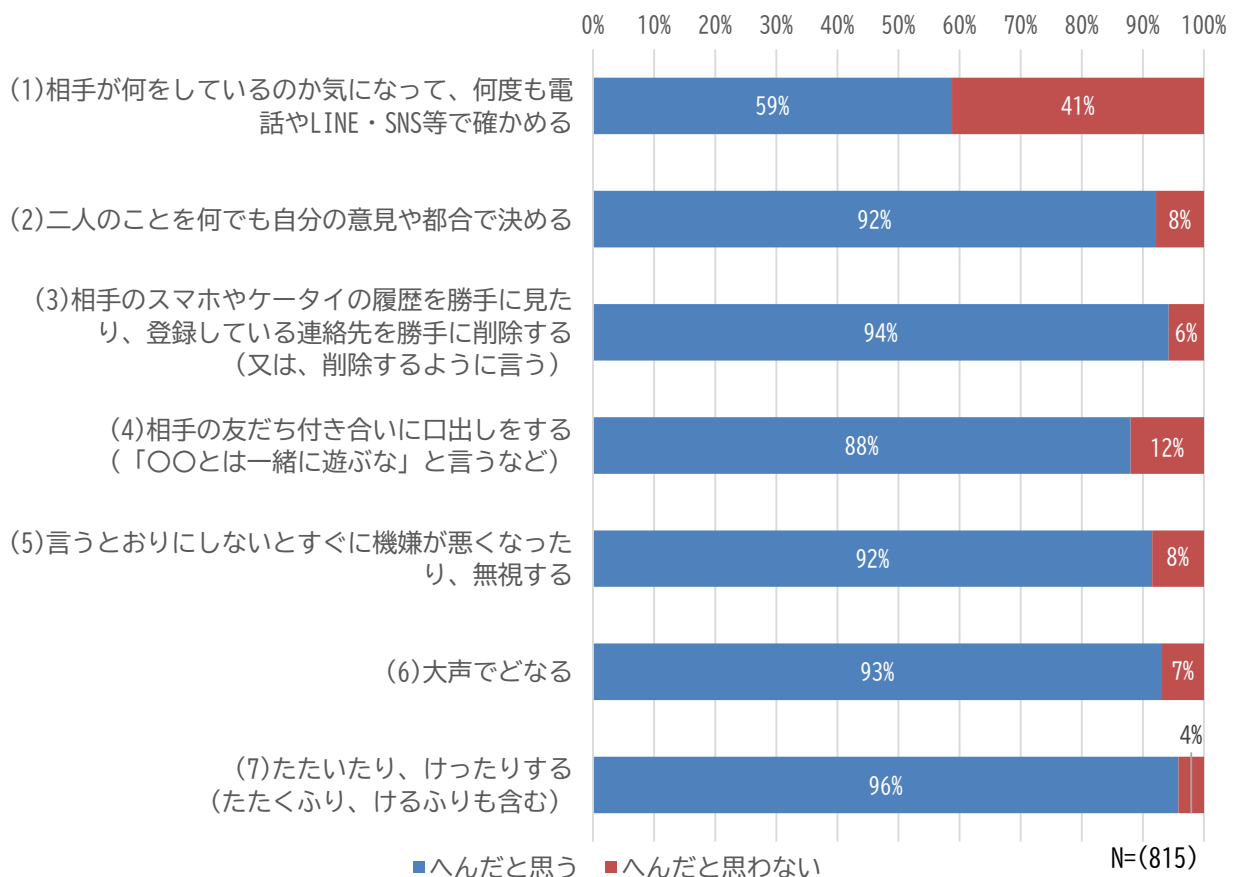
4 暴力の根絶について

問 10 恋人同士の交際について、次の(1)～(7)のような関係をどう思いますか。

(それぞれ、当てはまる番号1つに○)

※交際相手からの暴力について、「デートDV」と呼びます。なぐる、けるだけでなく言葉や態度による暴力もあります。相手のことを「こわい」と思ったら、それは暴力です。

- ・単純集計では、「(1)相手が何をしているのか気になって、何度も電話やLINE・SNS等で確かめる」以外の項目について、全て「へんだと思う」と回答した人の割合が85%以上であった。
- ・性別で比べると、「(1)相手が何をしているのか気になって、何度も電話やLINE・SNS等で確かめる」以外の項目全てにおいて、「へんだと思う」と回答した人の割合が、女性の方が高かった。



■クロス集計表

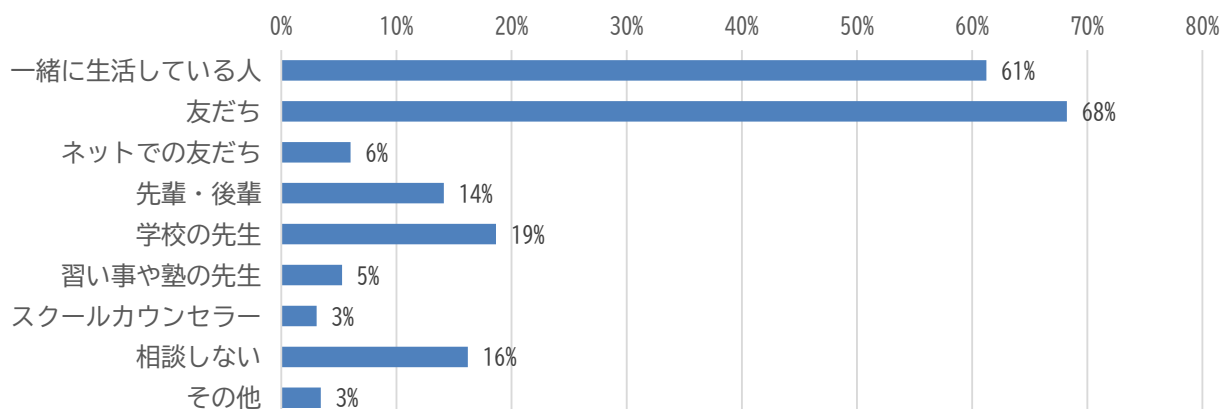
		総数 N=(815)	性別			学年						
			男性 N=(337)	女性 N=(444)	回答 しない N=(34)	中学 1年生 N=(54)	中学 2年生 N=(58)	中学 3年生 N=(81)	高校 1年生 N=(191)	高校 2年生 N=(212)	高校 3年生 N=(195)	回答 しない N=(24)
(1)相手が何をしているのか気になって、何度も電話や LINE・SNS 等で確かめる	へんだと思う	59%	60%	58%	59%	70%	57%	58%	54%	59%	62%	50%
	へんだと思わない	41%	40%	42%	41%	30%	43%	42%	46%	41%	38%	50%
(2)二人のことを何でも自分の意見や都合で決める	へんだと思う	92%	90%	95%	82%	93%	91%	88%	92%	92%	96%	75%
	へんだと思わない	8%	10%	5%	18%	7%	9%	12%	8%	8%	4%	25%
(3)相手のスマホやケータイの履歴を勝手に見たり、登録している連絡先を勝手に削除する(又は、削除するように言う)	へんだと思う	94%	93%	96%	88%	91%	95%	91%	95%	95%	96%	79%
	へんだと思わない	6%	7%	4%	12%	9%	5%	9%	5%	5%	4%	21%
(4)相手の友だち付き合いに口出しをする(「〇〇とは一緒に遊ぶな」と言うなど)	へんだと思う	88%	85%	91%	85%	89%	95%	86%	88%	86%	90%	75%
	へんだと思わない	12%	15%	9%	15%	11%	5%	14%	12%	14%	10%	25%
(5)言うとおりにしないとすぐに機嫌が悪くなったり、無視する	へんだと思う	92%	89%	95%	79%	93%	90%	84%	93%	93%	93%	75%
	へんだと思わない	8%	11%	5%	21%	7%	10%	16%	7%	7%	7%	25%
(6)大声でどなる	へんだと思う	93%	90%	97%	76%	94%	93%	85%	96%	94%	95%	95%
	へんだと思わない	7%	10%	3%	24%	6%	7%	15%	4%	6%	5%	5%
(7)たたいたり、けったりする(たたくふり、けるふりも含む)	へんだと思う	96%	96%	97%	82%	94%	97%	90%	97%	97%	98%	71%
	へんだと思わない	4%	4%	3%	18%	6%	3%	10%	3%	3%	2%	29%

* ■：「へんだと思う」の選択率が高い性別

問 11 あなたは、悩みごとや心配ごとがある時、だれに相談しますか。

(当てはまる番号すべてに○)

- ・ 悩みごとや心配ごとの相談相手については、「友だち」と回答した人が 68%と最も高く、次いで「一緒に生活している人」が 61%と高かったことから、身近な人に相談している人が多いことがうかがえる。
- ・ 一方で、16%の人が「相談しない」と回答した。
- ・ その他では、「chatGTP」や「Gemeni」などの生成 AI が多く挙げられていた。



N=(815)、複数回答

■クロス集計表

	総数 N=(815)	性別			学年						
		男性 N=(337)	女性 N=(444)	回答 しない N=(34)	中学 1 年生 N=(54)	中学 2 年生 N=(58)	中学 3 年生 N=(81)	高校 1 年生 N=(191)	高校 2 年生 N=(212)	高校 3 年生 N=(195)	回答 しない N=(24)
一緒に生活している人	61%	54%	68%	48%	54%	62%	53%	65%	61%	65%	46%
友だち	68%	65%	73%	36%	61%	72%	62%	70%	70%	74%	29%
ネットでの友だち	6%	5%	7%	3%	2%	3%	4%	5%	6%	10%	4%
先輩・後輩	14%	14%	15%	3%	20%	12%	7%	17%	15%	14%	0%
学校の先生	19%	22%	17%	9%	28%	16%	15%	22%	18%	18%	0%
習い事や塾の先生	5%	5%	5%	6%	4%	5%	9%	7%	3%	6%	0%
スクールカウンセラー	3%	3%	3%	3%	2%	3%	4%	4%	2%	4%	0%
相談しない	16%	21%	12%	21%	20%	9%	22%	13%	14%	17%	42%
その他	3%	3%	3%	12%	7%	7%	2%	1%	4%	3%	8%

*それぞれの性別や学年で選択率 ■：上位 1 位、■：2 位、■：3 位

■その他の回答

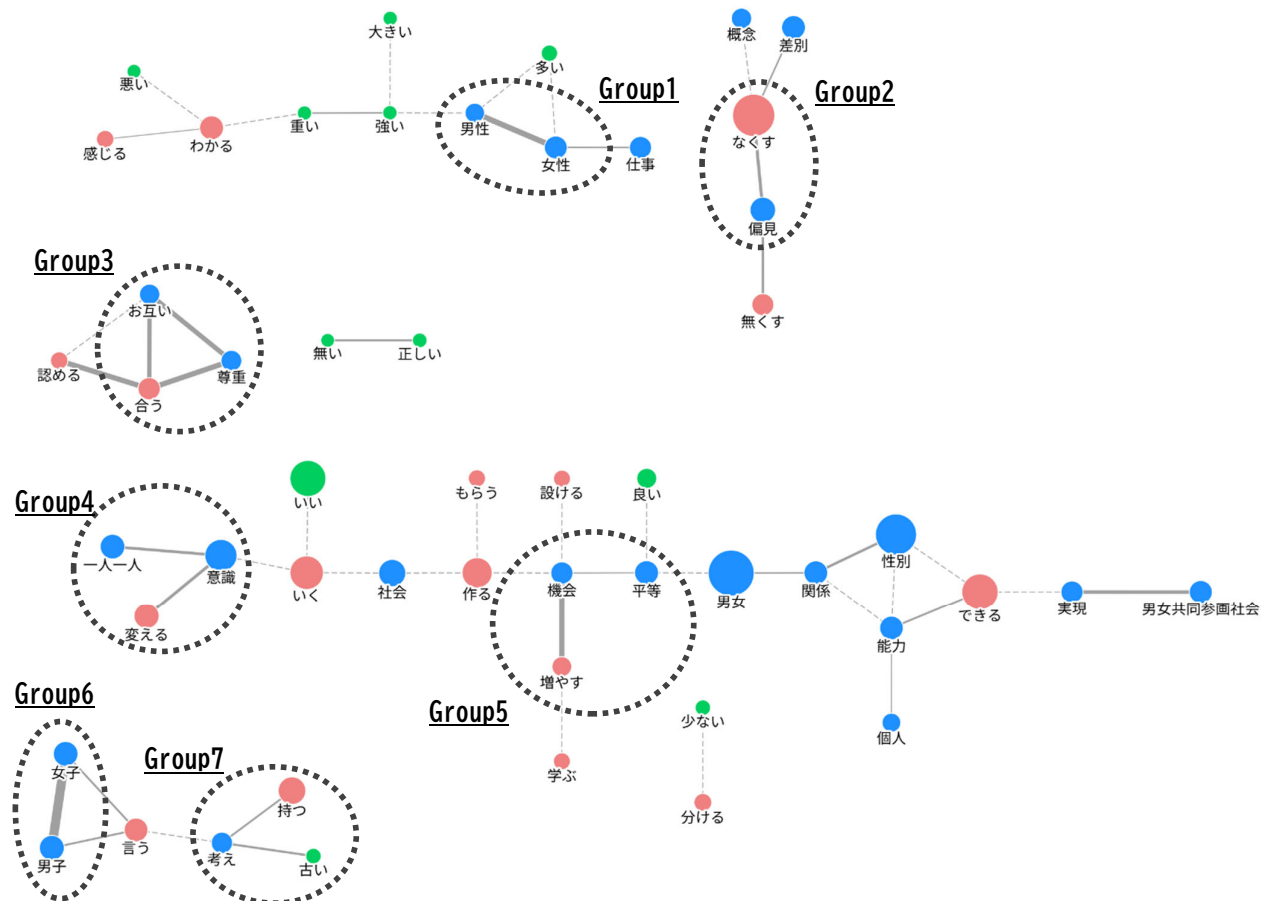
生成 AI	13 人
家族・親族	5 人
恋人	2 人
相談できる人はいない	1 人
特にない	1 人
ペット	1 人
大切な物	1 人
養護教諭	1 人
相談がないか聞いてきた人	1 人
悩みによって相談相手を変える	1 人
悩み事はない	1 人

問 12 男子・女子といった性別に関係なく、一人ひとりの個性や能力をあらゆる場で十分に発揮できる「男女共同参画社会」を実現するためにはどうしたらいいと思いますか。

本設問は自由記述での回答であったため、共起回数分析※を行った。回答の文章中でよく使われた単語、一緒に使われた単語を抽出し、大きく 7 つのグループにてトピックスが示す。グループごとに挙げられた一部回答を抜粋して記載する。

※共起回数分析…文章内の一緒に用いられている単語やフレーズを図式化する手法。単語をノード（接点）として、一緒に使われる単語同士を線で結ぶ。ノードの大きさによって単語が使われている頻度、線とその線の太さによって一緒に使われる単語・頻度を示す。設問文章中にも用いられている「男女共同参画」や「実現」、述語として使われる「思う」等の単語は意見の意図が含まれていないことが考えられるため、グループ化は行わなかった。また、本分析では「思う」という単語を除外して分析を行った。

■共起回数分析結果



■各グループの回答

①女性・男性

Group1では、性別による固定観念や不当な制限をなくし、個人の強みや能力を生かして仕事に就ける社会を望む意見が多く見られた。また、男女の身体的な特徴や役割の違いを認めつつ、得意分野や負担を分担し合うことの大切さや、適切な区別や公平性を重視する必要があるという意見も一定数挙げられた。

【回答】

- ・ 人には長所短所があるので、それらを活かせる仕事に就けばいいと思う。問題なのは、社会に貢献できる能力を持っているにもかかわらず、性別等を理由に社会進出を制限されることだと思う。かといって自分の都合だけを考えて、自分に向いていない仕事をやらせろというのは横柄なことである思う。だから力仕事に男性が多く女性が少ないのは、性別による元々の力の強さが違うからであって、それを差別と騒ぎ立てるのは稚拙に思える。よって社会は性別等の不変的な事項ではなく、その人の強みや能力を基にした就職機会を設けるべきだと思う。
- ・ 子育ての女性負担を減らし、子どもを出産した後、出産を経験しない男性や出産をしていない女性と対等な立場として、職場復帰できるようにする。また対等な役割を担うことができる。ただ、男性、女性それぞれが持っている特性はあると思っている。それは考え方として、大人が子どもの、難しいを支えるのと同じように、相対的にみて力の強い男性が重いものを率先して持つとかは、男女の差別とはまた別の話で、特性を活かした優しさだと思う。
- ・ 男女が平等に扱われるというのは時に問題を生ずる。男性、女性と別れているのは身体的、精神的に異なるから別れているのであって、区別すべきところは区別し、社会と個人の利益を天秤にかけて考えなければならない。公共の福祉のために個人の権利を制限することも必要に応じてあるべきであり、また

同時に個人が差別されるようなことはあってはならない。完全な平等である必要はなく少なくとも公平であるべきである。

- ・ 男性が仕事に就くという固定観念があるため、女性が働きやすいような助成金の設置。

②偏見・なくす

Group2 では、偏見や差別をなくすことが男女共同参画社会の実現につながるというような意見が多かった。偏見をなくすため、教育を行う、環境を変えなどの具体的な取り組みについての回答があった。

【回答】

- ・ 全ての人々が男女共同参画社会について学び、偏見などをなくすような努力をする。
- ・ 偏見をなくすこと。根付いている偏見はもとより親や周りの環境から起こるものなので、すぐに改善はできなくても、徐々に偏見を減らしていき、次世代に繋げていくことが大切だと思う。偏見を減らすことは、偏見をもたらすような環境を変える、きちんとして教育、カウンセリングなどの充実、広報などが挙げられると思う。

③お互い・尊重／合う

Group3 では、お互いが認め合い、尊重し合うべきだという意見が多く見られた。また、性別だけでなく年齢や国籍、障がいの有無、得手不得手など、さまざまな違いを認め、個人を尊重するという意見も挙げられた。

【回答】

- ・ 男女の格差を無くし、お互いを尊重し合う。
- ・ お互いを尊重し合い、認め合うことで、性別だけでなく、年齢・国籍・障がいの有無など、多様な人々が活躍できる社会を目指す。
- ・ それぞれがお互いの得意不得意を考え尊重し合いながら、色々な物事に最善な策を考えたい。

④一人一人・意識

Group4 では、まずは一人一人が意識を変え、偏見を持たずに接することが重要だという意見が多く見られた。また、意識改革のために授業や企業への働きかけなど、社会全体で取り組む必要があるという声も寄せられた。

【回答】

- ・ まず一人一人の意見から、男女差別についての意識をなくすことが大切だと思う。
- ・ 一人一人が意識を変え、偏見を持たずに、1人の人間として接する。
- ・ 一人一人の意識改革。授業をする、企業に働きかける。

⑤機会／平等・増やす

Group5 では、結果の平等ではなく、挑戦する機会の平等を重視する意見が見られた。また、男女差別や固定観念をなくすために、教育の機会や男女が関わる機会を増やすことが重要だという意見も挙げられた。

【回答】

- ・ 何かに挑戦することのできる機会を男女で平等にする。
- ・ 男女の機会を平等にし、男女に付属する固定概念を薄くするための教育を進めること。
- ・ 男女共同参画社会を実現するためには結果の平等（男女比を1:1にしよう！など）を追い求めるのではなく機会の公正さを追い求めて行くことが大事だと思います。

- ・ 1人1人が「男女差別」という概念を考え直す機会を小・中学校（義務教育9年間）の間に今まで以上に増やす。また、男女共学をできる限り心がける。
- ・ 例えば、男子と女子で体育を一緒にするべき。なぜなら、いろんなことで区別して分けてしまうと、関わる機会も無くなって男女の間が大きくなると思うから。また、男子がするべき、女子がするべきという固定観念を壊すために、いろんなことに挑戦しやすい雰囲気を作ってもらいたい。つまり、関わる機会を増やすことによって新たな気づきも出てくると思われる。

⑥女子・男子

Group6では、学校現場をはじめとした日常生活の中で「男子だから」「女子だから」といった固定観念を想起させるような言動をしないという回答が多かった。また、幼い時から性差に関する教育を充実させる必要性や、そもそも「男女平等」という表現自体が性別で分けて捉えることにつながるという意見もあった。

【回答】

- ・ そもそも、「男女平等に」とか言ってる時点で、男子と女子を分けて見ているように聞こえてしまうんじゃないかなって思います。たしかに、その子達のために男女平等な社会を目指すのはすごく良くて、悩んでる子も助かると思うけど、やっぱり悩んでいる子達は呼び方なども気にしてしまうと思うから、自然と、普通の接し方？でいいんじゃないかなって思います。「男子が～」「女子が～」の言い方なんじゃないかなって思います。
- ・ まずは、男子だから、女子だからという固定観念を排除する。
- ・ 教材などを運ぶ時に、先生が「男子何人か来てー」と頼んだり、体育の授業の準備とかを男子に頼んだりすることがある。女子もしろよって思ったり、俺らはしとるのに女子は楽やなとかも思う男子もいる。大袈裟かもしれないが、男子はこうであるべき、女性はこうであるべきという価値観を共有している行動だと思うので、まずは学校現場の意識せずしている行動が徐々に減っていくといいと思う。性差別などの授業を増やし、幼い子がそういう意識を持たないようにすると思う。
- ・ 女子、男子にかかわらず、同じような内容を教える。したいことを「女子だから」「男子だから」と言う理由で否定しない。
- ・ 男子、女子と考える前に人間というひとくくりで捉えること。男子も女子も人間だから、ひとまとめた方がまとまり、チームのようになれるのではないだろうか。それだと、「男女共同参画社会」ではなく、「人間共同参画社会」の方がいい気がする。
- ・ 男子が～で女子が～みたいな固定観念をなくす。また、何かの規定に性別関係の事柄を入れないようにする。

⑦古い・考え

Group7では、今後古い考え方を持つ人が減少することで、さらに自然と実現に近づいていくという意見が見られた。また、社会の中核を担う人々が新しい世代に変わっていくことや、学校教育を通じて子どもの頃から正しい知識や価値観を身につけることが重要だという声があった。

【回答】

- ・ もうすでに「男女共同参画社会」が実現しているところが多いのでこのまま古い考えの方が時代とともに減っていけば自然と実現できる。
- ・ 古い考えの人がいまだに日本の政治や経済の中核を担っているせいだと思うので、時間が経ち日本を担う人が変わると社会も自然と変わっていくと思う
- ・ 小学校、中学校などの学校などでそういう教育や知識を学ばせておくと、それが当たり前になってくると思う。大人の常識は変えるのが難しいが、少しずつ古い考え方を直させていけばいいと思う。

問 15 あなたは、生成 AI 等デジタルテクノロジーを日常生活において、活用していますか。

(当てはまる番号 1 つに○)

※生成 AI とは、入力した情報を基に、テキスト、画像、音声、動画等の新しいコンテンツを自動で生成する AI 技術のことです。
代表的なものとしては、ChatGPT や Gemini などが挙げられます。

- ・ 「はい」と回答している人が約 8 割を占めており、多くの人が日常で生成 AI 等のデジタルテクノロジーを活用していた。
- ・ 性別や年齢による差は見られなかった。

